

認定 NPO 法人保育ネットワーク・ミルク

粉ミルクのような頼りになる存在の「ミルク」が

あらゆる角度から保育を支援する三田市



認可保育施設や子育て支援スペース、三田市の委託事業の交流広場、学童保育など、幅広く子育て支援の事業を展開する認定 NPO 法人保育ネットワーク・ミルク。この事業をひとりで立ち上げ、現在は理事長としてご活躍の小泉雅子さんにお話を聞いた。

子どもを預ける場がないなら、自分が子どもを預かる人になろう



「3人目の子どもが1歳になったころ、そろそろ社会復帰したい、社会の役に立ちたい、と思いましたが、そのころの三田市には子どもを預けられる場所が空いていなかったのです」

以前、保育士として働いていた経験がある小泉さんは、それならば自分が子どもを預かる人になろうと思いつく。

初めてお子さんを預かったのが1990年3月。その後、数人の保育士がそれぞれ自宅で子どもを預かる保育士ネットワークとして活動を続けた。しかし、ニュータウンの人口増加にともなって預かり保育のニーズはますます高まる。そんな中、自宅での保育環境には限界もあり、1998年、認可外保育施設の「子育て支援スペースみるく」をスタートした。



頼りになる粉ミルクのような存在をめざす

2001年特定非営利活動（NPO）法人認証により「保育ネットワーク・ミルク」が小泉さんを理事長として始動。

「子育ては親がするもの。他人が口を出すべきではない」という考え方が一般的だったスタート当初から、「健全な子育てのためには親を支援する必要がある」という考えを貫いた。「母乳にはなれないけれど、粉ミルクのような頼りになる存在でありたい」

法人名の「ミルク」にはそんな思いが込められており、現在もその思いを職員全員が共有し、保育や子育て相談、講座やイベント開催など多岐にわたる活動を続けている。

保育現場の職員は、保育技術や救急法などの専門知識のフォローアップはもちろん、専門家によるカウンセリング・マインドの勉強会で人間関係やコミュニケーションも学んでいる。

小泉さん自身は、多くの人の参考になればという気持ちから、講演や地元のFM局の番組内での子育て相談なども行なっている。



スタッフの負担を減らし、みんなが笑顔に

保育の現場は激務になりがちだ。保育士が笑顔で業務にあたるよう、開業当初から「できる限り残業はしない、持ち帰り仕事はしない」というルールを決めている。

伺った、保育ネットワーク・ミルクが運営する保育施設のひとつ、ミルクたんぼぼ園の部屋には、保育所や幼稚園によく見られる、保育士手作りの可愛らしい装飾が少なめだ。保育士の作業負担を減らすためでもあり、2歳以下の子どもは、実は過度な装飾が少ないほうが落ち着いて過ごせるという面もあるという。

また、保護者との連絡にはアプリを導入している。連絡業務が簡単になるだけでなく、子どもたちの園での様子などの写真を送ることもでき、保護者にも好評だ。



三田市は子育て世代が暮らしやすいまち。安心してきてください

「三田市には、子育て中の人がふらりと立ち寄って、スタッフや他のお父さん・お母さんと話したり相談したりできる交流広場がたくさんあります。引越してきたばかりの人に必要な情報も得やすく、お友達を作る機会も多いと思います。親子で遊べる公園もたくさんあります」

小泉さんは、安心して三田市に移住してきてください、と太鼓判を押す。



キャプション

<IMG_1430>

認定 NPO 法人保育ネットワーク・ミルク理事長の小泉雅子さん

<IMG_1412>

活動への思いが込められたリーフレット

<IMG_1434>

小泉さんは、講演や FM 局の番組内で子育て相談なども積極的に行なっている

<IMG_1459>

連絡用アプリは保護者にも好評だ

<IMG_1393>

保育ネットワーク・ミルクが運営するミルクたんぽぼ園